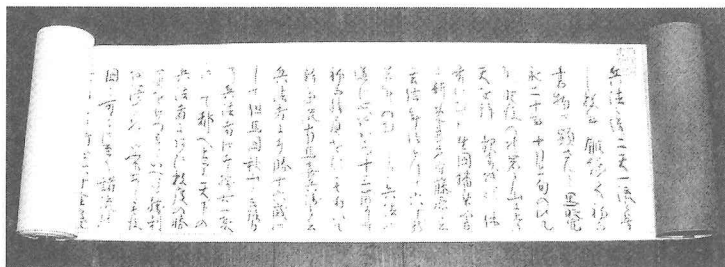


## 二 『五輪書』<sup>ごりんのしょ</sup>に学ぶ

『五輪書』は、日本剣道史上、二刀流として異色の存在である二天一流の基本的伝書で、正保二年（一六四五）、流祖宮本武蔵玄信の著と伝えられています。武蔵の自筆本が現存せず、流布によって字句の異同もあることから、従来その成立については種々の疑問が投げかけられています。しかしながら、本書が寛永十八年（一六四一）二月、武蔵が細川忠利の命によって、二刀一流の太刀筋の心得以下、兵法の心持ちに至るまでを著した覚書「兵法三十五箇条」を敷衍、肉付けしたものであり、武蔵の兵法観がよく貫徹されていることから、本書を柳生宗矩の『兵法家伝書』とともに、近世的武道伝書完成期の二大巨峰とすることに異論はないと思われます。

また本書は、外国語にも翻訳され普及しており、武道書としてのみならず一般の人々からは処世訓として、そして企業の経営や管理に携わる人々からは経営・管理の指南書として国内外を問わず広く支持されています。



『五輪書』地の巻（複製）天理図書館蔵

## 1 『五輪書』の構成と特徴——地・水・火・風・空

五輪書は、仏教の五大・五輪になぞらえて五巻から構成されています。「五大」とは、この世界・宇宙は「地・水・火・風・空」の五つの要素によって構成されているという思想であり、われわれ人間も自然界の一隅でこの五つの恩恵を蒙りながら、この世に生を受け、生を全うし、また新たな生を育んでいるという考えです。「五輪」は、この五大を象徴的に表したシンボルであり、図5（次ページ）のような「五輪塔」はみなさんの周囲のお寺などでも容易に眼にすることができると思います。

宮本武蔵は、五大・五輪についての仏教的な解釈は一切していません。というよりは、「仏神は貴し、仏神をたのみず」（『独行道』）と自戒したように、武蔵は「今此書を作るといへども、仏法・儒道の古語をもちからず、軍記・軍法の古きことをもちひず」（渡辺一郎校注『五輪書』岩波文庫 11ページ）という、まさし

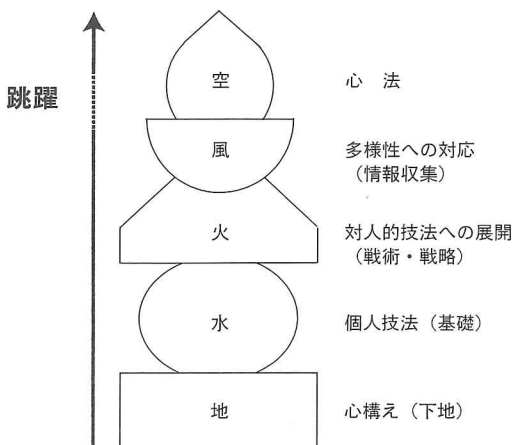


図5 五輪書の構成からみた二天一流の修行プロセスのイメージ  
(五輪塔の図のみ、大浦辰男『宮本武蔵の真髓』より)

く「独行」の姿勢でこの五輪書を書いています。この点は『兵法家伝書』が、禅僧沢庵や、細川、鍋島らの諸侯、さらには能楽の金春家との交流を通じて成立したことと好対照をなしています。そして、このことが柳生新陰流の教習プログラムや『兵法家伝書』の構成が、〈殺人刀 ↓ 活人剣〉への上達のプロセスに見合うように周到に用意されていたのとは反対に、『五輪書』には武蔵が五十余年の孤独な修行から得た兵法観・人生観が生身のまま提示されているという良さがある反面、構成上の不備や内容の重複がみられ、武蔵のいわんとするところが不明確であるという欠点が指摘されてきた理由でもあります。

しかしながら、図5の五輪塔の〈地 ↓ 水 ↓ 火 ↓ 風 ↓ 空〉という、「万理一空」の境地に到る〈積み重ね〉、あるいは〈上昇〉のイメージ

を描いていたことは確かのように思われます。本書執筆にあたって『五輪書』の構成と内容を再吟味してみると、以下に示すように明らかに上達のプロセスと内容の構成は意図的に関連づけられていると思います。

- (1) 地之巻——心構え（兵法修業の下地）
  - ・ 一般的心構え（武士としての、兵法者としての）
  - ・ 二天一流独自の心構え（二刀操作の根本理念）
- (2) 水之巻——個人的技法（剣術の基礎）
  - ・ 体固め
  - ・ 太刀の持ち方
  - ・ 構え
  - ・ 基本の形（五つのおもて）
  - ・ 各種のわざ
- (3) 火之巻——对人的技法への発展（個人的戦術・組織的戦略）
  - ・ 場取り、先、出ばなを挫くなどの戦術
  - ・ 個人的戦術と組織的戦略との共通性

(4) 風之巻——多様性への対応

・相手の観察

・情報収集

(5) 空之巻——高度な心法（自然体、平常心）

2 修業の下地——心構え

先にみたように、武蔵は五大・五輪をイメージして構成した『五輪書』第一巻で、さまざまな心構えについて述べています。すなわちこの心構えこそが兵法修業の根本であり、下地を固めるという意味で、この第一巻を「地之巻」とした所以ゆえんであると考えます。『風姿花伝』において、世阿弥は「好色、博打、大酒」と「慢心」を戒め、初心を忘れないことを心構えとしてもつことの大切さを説きました。武道においても、入門時には「誓詞」を呈上し、業の修練に専心努力することを誓う習わしになっていました。現在でもそれぞれの道場には「道場訓」やそれに代わる教えがあり、修業上の心構えが要求されているのではないのでしょうか。

「汝なんじ…すべからず」という他律的制約を、「我…せず」という自立的決意に転換することによって、仏教の戒律が修行として意味をなすように、「心構え」を持続的に堅持することは、〈自分で、